

■中村裕 医学者、整形外科医。身体障害者のスポーツ振興をはかり“日本パラリンピックの父”と呼ばれる。

なかむら ゆたか

金融恐慌・・・1927＝

共産党事件・1928＝ 1歳：

海軍軍縮条約1930＝ 3歳：

満州事変・・・1931＝ 4歳：

国際連盟脱退1933＝ 6歳：

二二六事件・1936＝ 9歳：

日中戦争始・・・1937＝10歳：

第二次大戦始1939＝12歳：

大政翼賛会・・・1940＝13歳：

日米開戦・・・1941＝14歳：

近代の超克・1942＝15歳：

敗戦・・・・・・1945＝18歳：

新憲法公布・1946＝19歳：

朝鮮戦争始・・・1950＝23歳：

独立回復・・・1951＝24歳：

メデー事件・1952＝25歳：

TV放送始・・・1953＝26歳：

自衛隊発足・1954＝27歳：

なべ底不況・1957＝30歳：

インスタントラーメン・1958＝31歳：

美智子妃・・・1959＝32歳：

安保闘争・・・1960＝33歳：

タイタイ病始・1961＝34歳：

全国総合計画1962＝35歳：

TV宇宙中継始1963＝36歳：

東京オリンピック 1964＝37歳：

大学紛争始・1965＝38歳：

いざなぎ景気1966＝39歳：

美濃部都知事1967＝40歳：

震ヶ巖ビル・・・1968＝41歳：

全共闘・・・・・・1969＝42歳：

ドルショック・・・1971＝44歳：

日中国交回復1972＝45歳：

石油ショック1973＝46歳：

クアンプール事件1975＝48歳：

田中角栄逮捕1976＝49歳：

成田衝突・・・・・・1978＝51歳：

革新大敗北・1979＝52歳：

貿易摩擦始・1980＝53歳：

・・・・・・1981＝54歳：

中曽根内閣・・・1982＝55歳：

ドイツeuroント・・・1983＝56歳：

・・・・・・1984＝57歳：

佐野慎輔「日本のパラリンピックの父」中村裕，

日本一の温泉郷大分県別府のなかでも、温泉発祥の地で知られる浜脇で、日本製鐵八幡製鐵所の病院の医師中村亀市の次男に生まれる。母は八重は、大分県西国東の庄屋の出。

父が退職し、地元で開業。評判が良く、別府温泉倶楽部を買い取り、自宅兼病院にすると、温泉への入浴治療を始めるなど工夫。

姉と兄が1人ずつ、のち弟と妹が1人ずつでき、5人兄弟の真ん中になる。

別府市立野口尋常小学校入学

裕福な家で、何にでも興味を持つ、いたずら好きな子に育ち、学校でも成績優秀ながら、行動が問題にされ、行く末を案じた学校からの提案もあって、

卒業とともに、夫が福岡高等学校で教師をしている父の妹の家に預けられることになり、

福岡県立福岡中学校に入学、なお、いたずらが嵩じて、叔母に面倒をかけたたりし、叔父が大分高等学校に転動になったのに従い、大分県立大分中学校に転校、成績は良いので級長になる。

肋膜炎に罹ったため休学、自宅に戻り、少し回復したところで、母の実家に転地療養、

治癒して実家に戻り、復学。病気などの理由で、学徒動員から外されたメンバーを代表して、参加希望を文書にし、大分の海軍航空隊司令部に送ったところ、動員がかかり、海軍の飛行機修理工場に行くこと、好奇心と器用さで、皆から褒められ、工学部進学を希望するも、医者を継がせようとする父の意向で、

小倉医学専門学校に入学するも、敗戦で、

廃止になり、九州大学附属医学専門部に編入、

好奇心からは解剖くらいしか興味を持てず、父の中村医院に出入りしていた人のオート三輪で運転を覚え、免許を取得すると、車が欲しくなり、稼ぐために真面目に勉強を始めるや成績がすぐに上昇、

九州大学医学専門部特待生となる。親にはだまって仕送りも続けてもらい、たまったお金で、駐留軍払いの中古ジープを購入し、唯一人の車保有学生となる。

九州大学医学専門部を卒業、東京築地の聖路加国際病院でインターン。余暇にはタクシー運転手した後、

九州大学医学部整形外科医局に入局、天児教授の指導を受け、医師免許も取得。

天児教授から、リハビリテーションを研究するよう勧められると、渡航が自由でないなか、渡米し、インターナショナル・リハビリテーション・ソサエティを訪ね、多くの資料を入手して帰国。

九州労災病院のリハビリ科で研修したのち、九州大学医学部整形外科リハビリテーション係になり、国立別府病院整形外科科長となる。それらをもとに、天児教授とリハビリテーション教科書を執筆、

福岡県議会議長の娘で京都女子大生小林廣子と結婚。英語の必要性を実感、偶然目にした、弟の同級生野尻義孝の英語塾に通い始め、のち、さまざまな活動で協力してくれることに。「リハビリティション～医学的更生指導と理学的療法」となって出版、日本初のリハビリテーションの手引書になる。

長男太郎誕生。*厚生省から、英国のストーク・マンデビル病院のルートヴィヒ・グットマンのもとに派遣され、研修するうち、患者の機能回復にはスポーツが良いことを知り、'失ったものを教えるな。残されたものを最大限に生かせ'の言葉に開眼。この病院では毎年車いす患者によるスポーツ大会が開かれ、この年のローマオリンピックに続いて開かれることになった第9回国際ストーク・マンデビル大会は、のちに第1回パラリンピック競技大会と呼ばれる。帰国するや、障害者スポーツ振興に情熱を傾けるようになり、まわりを説得し、国立別府病院でスポーツ療法を始めると、患者らがとたんに生き生きし始め、

大分県身体障害者体育協会を設立、副会長になって、第1回大分県身体障害者体育大会を開催するも、周囲の関心が全く低いのに愕然とするうち、国立身体障害者更生指導所に、東京オリンピック後に国際ストーク・マンデビル大会を開催するべく、グットマンから協力依頼が入り、

次男英次郎誕生。社会福祉事業振興会会長の葛西嘉資を委員長とする準備委員会の企画委員として参加。熱心な訴えが委員に通じ、第11回国際ストーク・マンデビル競技大会に選手を送ることが決定、大分銀行や英国航空の支援も取付け、不足分は自分の愛車を手放して補い、副団長となって、伊藤工と吉田勝也をつれて参加、吉田が水泳で3位となる。帰国後、選手たちは、皇太子夫妻に東宮御所に招かれたこともあって、ついに、厚生省もスポーツ・リハビリ政策に取り組むようになった。

長女万里子誕生。オーストリアでの国際身体障害者スポーツ機構開催の大会にも参加、同時に開かれた国際ストーク・マンデビル委員会理事会で、日本が理事国に入るとともに、翌年の東京オリンピックに合わせて、競技会を開くことも決定。この時、日本の新聞記者らが考え出した“パラリンピック”の語が定着するとともに、創設者グットマンに配慮し、本来の車いすを一部、それ以外の障害者は2部にすることで、一気に対象を拡大、葛西の一言で、その日本選手団団長になることも決定。

*社会福祉法人別府整肢園園長となる。資金不足が報道されると、多くの人や企業・団体からの寄付もあって、第2回パラリンピック東京大会が無事実現。大会会期中に、アメリカ選手団団長から、日本では障害者への技術訓練が遅れているので、アメリカに留学させてはと提案されるや、早速行動に移し、

ブルーバード時計学校に2名を、続いて、自身が障害者の{タッパーウェア}社長から、選手を雇いたいと連絡が入り、自ら選考して7人を派遣。別府整肢園に入園してきた女の子のリハビリが縁になって、その父で、障害者問題にも取り組む作家の水上勉と親交、その助言と命名で、障害者の自立をめざす職業訓練施設、社会福祉法人{太陽の家}を開所。この間、患者治療中にB型肝炎に罹り、一次病院。水上の縁もあって、支援の輪は一気に拡大、評論家の秋山ちえ子、その紹介で、ソーニー株式会社創業者の井深大らとも出会う。

{太陽の家}東京事務所を開設、障害者がつくった会社を渡米視察、先輩の協力得て、大分中村病院開設。早川電機創業者早川徳次を訪ね、その発注を受けることに成功、この年死去した文芸春秋社長佐々木茂策の遺言による寄付で、体育館も建設。県外に兼任の多さが指摘される、まず、別府整肢園園長を辞任、

テルアビブでの第3回パラリンピックでも日本選手団団長、その際、東南アジアや南太平洋の国々からの参加が無いことが話題になると、早速、新たな大会の創設に乗り出す。{太陽の家}理事長となり、国立別府病院を退職し、大分中村病院の院長に絞る。様々な大企業からの支援もあって、

{太陽の家}の6階建て総合ビルが完成、そこに入る工場をと、秋山から紹介された立石電機創業者立石一真に会い、ついに共同出資の{オムロン太陽電機}が誕生。

ハイデルベルクでの第4回パラリンピックでも日本選手団団長。創業4か月で黒字になり、

国に税金を納めるまでになって、周囲を驚嘆させる。

葛西の協力も得て、*第1回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会(フェスピック)の大分・別府両市での開催を実現、大会副会長をつとめる。吉川英治文化賞を受賞。

障害の対象が大幅に拡大されたトロントでの第5回夏季パラリンピックでも、日本選手団団長になる。

ソーニーの井深大との間でも、株式会社{サン・インダストリー(のちにソーニー・太陽)}が実現し、その社長に就任。井深の紹介で訪れたホンダ創業者本田宗一郎を案内して、感激させ、その場で話がまとまって、国際パラプレジア医学会副会長、以後2年、日本パラプレジア医学会会長。

実現した{ホンダ太陽}の社長にも就任。パラリンピックでの日本選手団団長は、オランダのアーネムでの第6回が最後になるが、この時、8年後にオリピック開催が決定した韓国ソウルがパラリンピックの開催を決っていたのを調整し、実現に至らせた。この年、恩師グットマンが死去するも、葬儀に参列できず、以後長く続くことになる第1回大分国際車いすマラソンの開催も実現し、大会副会長をつとめる。

三菱商事との共同出資でできた{三菱商事太陽}社長。イギリスでおこなわれた国際パラプレジア医学会に出席、副会長を辞任。グットマン博士の墓に参る。B型肝炎で、何度も倒れてきたが、

初の県外進出(愛知太陽の家)の開所式に出席、中国に渡って、鄧小平の息子で自らも身体障害者で全国組織会長をつとめる鄧樸方らと会談、再び愛知での世界初の国際障害者レジャー・レクリエーション・スポーツ大会実行委員長として出席するなど、*無理がたたって、悪化して肝臓ガンになり、まもなく、没した。